
僕らの話し合い

轟

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕らの話し合い

【著者名】

ZZマーク

【あらすじ】

あらすじー？そんなものはございません。

ただ暇なら読んで下さい。

轟

初めまして（前書き）

暇だから。作った小説第2弾。まあ読んで下さいな。

初めまして

「暇だね……。」

ケン達が冒険する星。いや、世界とはまた別の世界。
その世界であるポケモンが空に向かつて呴いた。そのポケモンは「
ニコニ」と叫う種類のポケモンだ。

「わづだな。」

また別のポケモンも空に向かつて呴いた。そのポケモンは「ヨーギラ
ス」と言う種類のポケモンだ。

暇なら何かしようつか。

「作者さんー。」

「あんたの出番は」「」にはないつすよ。さあ、帰った帰った。」

ひどい！…何かしようよ。

「ケン達の方を執筆すれば良いじゃないですか。」

いやだよ。とか、何でケンの事を知つてんの？

「知らないつす。勝手に頭に入つてたんだから。」

「作者さん。何するんですか？」の小説。」

作者の暇つぶし。

「ふざけんな。帰るわ。」

「えっ、あ、うさ。」

「まじでかー…ならせる。」

あつかいやすい奴だ。まあ、それでも皆わざ。轟の暇つぶしを始め
ます。

初めまして（後書き）

暇だから。作った小説第2弾。

内容は色々な事を「イシラ」と話すだけです。名前はまだ未設定なんで。とりあえずは「リコウ」と「ギラス」で。

「よろしく~。」

「よろしくな。」

では、次回も~

話しかけのせつめいだ（前書き）

「な、何でこんなタイトルなんだ。」

知らない。まあ、いいじゃん。この作者が暇つぶしの為に書いた小説なんだから。

「あ～だ～？」

「ココウーー！ と待て…。いや、もう始めてこよ。」

「じゃあ～。スタート～！」

話しがこのせじめりだ

れあ～。やつて来ました。暇つぶし小説～。

「何だこれ？」

「楽しそ～。」

わあヨーヤラス君。暇つぶしをしようじゃないか。

今回の議題はこれ。

ポケモンってバグ多くね？

「はっ！？何！？ゲームの話！？」

そりదす。ゲームの話です。まあ今回もゲームだなびや。

「楽しそ～。」

「お前わざわざからうさればっかりだな…！」

「うふ～」

「うん　じゃねえーー。」

まあまあ。いらっしゃいいらっしゃい。では、まず一番重要なダイヤモンダ。アベルから。

秘密の場所について

「秘密の場所？ああ～。あの四天王のコロナの所で波乗りすると行ける所か～。」

「でも、あそこでセーブすると動けなくなるんでしょ。おもしろい？」

「全然面白くねえよ！でも、何かもう一つあったよな。」

「うん。まあ気にすんな。で、何でみんなバグが起きたんだろうね？」

「さあ～しつかしあれで未公開のダークライとかショイヒとかみんなにバレちまつたな。」

「そうだね。なんか…。可哀相な気が…。てか、あれバレたのか？」

「さあ？」

「わんだほ～。」

「//ココウー！帰つて來い。現実に…！」

「んで、他なにせんだよ。」

「今日はいいでお終い。次回もこのお題で行きませ～～。」

「議題じゃなくなつてゐる…。」

話しごとにせじめりだ（後書き）

1話がちゅうひ三ヶ日。

「しかもハンパな終わり方。何とかしろよ。」

無理だね。

「無理」

「//ココウーでめり…じつちの味方だー?」

「次話もよろしく〜」

あ、今思い出した。//ココウは でヨーギラスが です。まあ、お分かりでしょうが…。

Hメラルド（前書き）

「Hメラルド？あんたどんな基準でタイトルつけてんだよ？」

まあ(気にしない)。皆さん。感想でも何でも来てちょうだい。

「そのパターンなんか見たような…。」

Hメラルド

お久しぶりです。やあこの前の続きを始めましょうか。

「で今度は何のゲームだよ。」

それはエメラルドからです。

「Hメラルド? 何かバグあつたけ?」

「あつたよ~ 変わったのが~。」

それはデータバグでポケモンが増えるバグなんです。

「へ~。さっきつ書いひ。//ニココウ。全然変わつてね~よーーむしろ便利だよ。」

「え~。やうかな~?」

まあ2人の会話無視して、ヨー、ギラス。このバグは便利じゃないんだよ。増えるだけじゃなく、減つたりする事だつてあるんだから。

「ふ~ん。まあどうでもいいや。」

そうですか…。んじゃお題変えよつか。

みんな知つてる?

「あのや。思つたんだけど。お題變へなくなくな?」

うんー…やつ思つ。なのに、お題は無じでしまよ。

「わ～」

「お前は何がしたいんだ?」

さあ? わかんないよ。彼女は何がしたいのかは。

「てか。俺さそろそろバトルをしたいんだけど。」

まだダメだね。まあ、頑張れば考えて上げるよ。

「わ～」

それじゃあ。

Hメリルド（後書き）

「てか、 真面目に書こてるのか？」

内容は不真面目であつても書くのは真面目。やつぱりんな時もやるときや やる。

それが一番。

「ふ～ん」

それでは

はじまり。（前書き）

はじめり。
では、どうもーー！

「短すきのだらーーー！」

すんません。

「わーー」

皆さんーーーそれではーーー。

レッツ・スタート

はじめ。

さあ。今日は2話だけど、頑張った君達に『褒美』を2つ差し上げよう。

「な、何だ!? 何くれんだ! ?」

「わ~」

まずはゲストでケンのストーリーからケン君ーー!

「えっと…。だ、誰?」

「さあ~」

まあ、彼は君の先輩です。なかなか強いかと。

「ふ~ん。」

「よし! 初めましてだな! !

「わ~ 初めまして~」

「よろしくな。」

ではいつも通りに話を進めましょうか。今回は何を話そうか?

「うへん。『』ですのも難だけど、俺らの話をすのね? .」

俺ら？ああ、君の物語の事ね。いいよ。ここでしかしない話があるから。

「ふうん。ケン先輩は俺らよりちつちやいつすね。」

「そだね～」

まあ、それまでにして、ケンがいじけるから。まずは、ケンの話のストーリーは今とは全然違うんだ。

「ちがうつって～」

「で、何が違うんだ？」

それはまず、火山編で疾風は仲間にならない。とか、火山編でケンはココロと離れ離れになるとか。

「えつ。俺は疾風と会わないのか～。」

「ほ～」

「随分違うな。」

さらに次に仲間になるのはショイミだつたんだ。

「えつ！？」

ストーリーの設定ではケン達は火山の噴火により、地面の揺れに巻き込まれて、そのまま山の山頂が崩れ、海に落ちる。そしてココロと離れ離れになる。

ケンが次に着いたのが、ショイミの里。いや、草タイプの里だった。

「ここまでだいたいのストーリー設定は考えられていたよ。

「ふ～ん。疾風の代わりにショイミか～。」

「わ～」

「随分と違うな。犯斗も後から決められたのか。」

まあ、やつまつ」と。

「あれ？ 作者。今回は長くないか？」

そりゃあ最終回だもの。
あと、言える事は……。

「や、最終回ー～も、まじか……。」

まじ。」褒美あげるからこ～じやん。

「わかつたよ…。」

話を戻して「「口は再進化と言ひ能力を最初は持つてなかつた。つて言つ事だね。

「じゃあ。あのー話の始まり方は…。どう言ひ意味？」

あの風か…。あれはまたいつか書くよ。それではこの辺でお終い。

ではご褒美を……。

それは、

「ゴクリ……。」

君達2人の新小説を書く事で～す！！

「え、えーと。ま、まじ？」

まじ。

じゃあ頑張つてね～。

はじまつ。(後書き)

ヨーギラス

「お、終わっちったな~。」

だからこの始まりなんじやないか。終わりすなわち、始まり。
しかしたら真の終わりなんて存在しないかもしれない。

「わ〜 意味不〜」

ひどっ!!

まあ、いいや。

皆さん。この話を読んでくれてありがとう!..

そしてこれからもよろしく!..

追伸。

既望があるなら…。
また続けるか〜。

このストーリーを。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7067j/>

僕らの話し合い

2010年10月10日21時39分発行